

## CONTENTS

---

- 01 新部会長あいさつ
- 03 令和元年度北海道博物館協会学芸職員部会総会・研修会を開催しました
- 03 北のミュージアム紀行 10 「新十津川町開拓記念館」
- 05 編集後記

### 新部会長あいさつ

北海道博物館協会 学芸職員部会 会長 澤田 健

---

本年9月に白老町で開催された総会で新役員19名とともに信任され、部会長を務めることになりました。本総会をもって退任された佐藤前部会長には、これまでのご尽力に心から感謝を申し上げます。引き続き部会員の皆さんと対話を重ね、会の運営を進めていきます。会員の皆様の忌憚のないご意見、そして運営への積極的なご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて今年度の研修会は、かねてより部会員アンケートで要望が多かった「資料の梱包」を取り上げました。ご存知のとおり、開催地・白老町では、2020年4月に国立アイヌ民族博物館が開館します。同博物館では、開館後に道内市町村博物館との資料の積極的な貸借を想定しています。そこで研修会を通じて、資料の貸し借りや状態の確認、資料梱包に関する基礎的かつある程度スタンダードな「作法」を館の規模や専門領域を越え、道内博物館学芸員の中で共有しておくべきではないかと考えました。

近年の研修会は、部会員の要望を取り入れながら技術研修を中心に取り組んでいます。急増する若手学芸員のスキルアップだけでなく、中堅以上の部会員の学びなおし、新たな知見の習得・共有・議論する場にもなっていると思います。地方財政の厳しい状況の中、私たち学芸員には多くのスキルが求められています。とはいえ、いきなり高みに到達することはなく、地道に積み上げていかなければ、その先の発展はありません。博物館の基本的な機能を発揮するために、研修会を通じて知識や技術を学び、仲間や専門家と情報を共有する場を引き続き作っていきます。各館園の取り組み事例を学び合う研修スタイルも残したいと思いますが、昨年度実施したレガシー事業のように、道内では受講する機会の少ない専門家による研修も当面は隔年で実施予定です。

最後に今年度研修会の講師をお引き受けいただいた古原敏弘さん、岡田恵介さん、三浦泰之さん、また研修会や懇親会の準備に奔走された武永真館長、日胆ブロック事務局の谷中聖治さんとブロック会員諸氏、そして参加された総勢80名！の部会員各位に感謝を申し上げます。大広間の大懇親会は壮観でした…。来年度開催地は道南の今金町です。今金町教育委員会の宮本雅通さんはじめ道南ブロック会員にはお世話になります。少しずつ研修内容を詰めつつあります。来年もたくさんの方の部会員の参加をお待ちしております。

# 令和元年度北海道博物館協会 学芸職員部会総会・研修会の開催しました

2019(令和元)年9月25日(水)・26日(木)の両日、白老町にて「令和元年度北海道博物館協会学芸職員部会総会・研修会」を開催しました

本研修会の目的は、博物館のまちづくりへの貢献が期待される今日、博物館活動の根幹をなす基本的な技術・素養はもちろんのこと、専門分野以外の基礎・基本を身に付けることも要求されている今日、博物館活動で求められる基本的技術とそれに基づく応用力を身につける契機とし、私たち学芸員が互いに学び合いながらスキルアップすることです。

主催：北海道博物館協会、共催：日胆地区博物館等連絡協議会、  
主管：北海道博物館協会学芸職員部会、後援：白老町教育委員会

## 第1日目 2019(令和元)年9月25日

### 1. 研修1「アイヌ民具の梱包」

講師：岡田恵介氏（アイヌ民族文化財団）、古原敏弘氏（元アイヌ民族研究センター）

会場：白老町コミュニティセンター 講堂（201号室）

アイヌ民具の梱包や取り扱いについて、实例を挙げての講演を聞き、梱包に使う道具の取り扱いを学び、実際に梱包を行う座学と実技の研修会。また、アイヌ工芸品展を数多く担当してきた岡田氏から具体的な梱包に関する解説を受け、日通が使っている段ボールや薄葉紙とそれらの市販品との違いや使用の手順、梱包方法について学び、実際の実技も実施。

1日目の研修では、最初に古原氏から、アイヌ民具の取り扱いについて講話がありました。アイヌ資料収集・保存時に実際に発生した課題と解決策を、実体験に基づいて話していただきました。次に、岡田氏から、梱包資材の作り方と梱包の方法の指導がありました。薄葉紙と綿で「紐」と「枕」を作り、それを使ってイタ（木の盆）を梱包し、段ボールに詰めるまでを体験しました。資料借用・集荷の現場では使うことが多い技術ですが、初めて体験した部会員も多く、実習は盛り上がりました。



1日目の研修風景

### 2. 総会

会場：白老町コミュニティセンター 講堂  
（201号室）

釧路市立博物館の加藤ゆき恵会員が議長に選出され総会が進行しました。平成30年度活動報告・会計決算報告、令和元年度活動報告・会計予算が承認されました。

その後、令和2年4月開館予定の国立アイヌ民族博物館開館進捗状況について同館準備室の宮地鼓会員より報告があり、次に、北海道

胆振東部地震後に安平町において実施した被災資料支援活動後の現在の状況について北海道博物館の會田理人会員より報告がありました。最後に役員の改選があり、部会長が小樽

市総合博物館の佐藤卓司会員から富良野市博物館の澤田健会員に交代となり、いしかり砂丘の風資料館の志賀健司会員が副会長に選出され、北海道博物館の鈴木琢也会員、美幌博物館の八重柏誠会員が新たに幹事に選出されました。

### 3. 情報交換会

会場：ホテルいずみ（白老郡白老町虎杖浜 312-1）

ホテルいずみの集会場にて情報交換会が開催されました。交換会は様似町郷土館の高橋美鈴会員の司会で進行し、新会員たちが一人ずつ自己紹介を行いました。交換会には多くの参加者が集まり、夜が更けるまで分野や世代を越えて活発に交流が行われました。

（文責 小玉愛子）

## ■ 第2日目 2019(令和元)年9月26日

### 2. 研修2 「資料貸借の実際～カルテ作成・注意点～」

－ テーマ「資料の貸借マナーと技術の共有化 カルテ作成から梱包まで」－

講師 三浦泰之氏（北海道博物館）

資料を貸借するときの流れやカルテの作成方法、資料の観察ポイントを学ぶための座学と実技の研修会。さらに各館園におけるカルテの事例発表とカルテ作成の実習を行いました。

- (1) 資料貸借の流れ～借用申請から返却まで～
- (2) 北海道博物館の貸出カルテの様式と考え方
- (3) カルテ記入の注意点と観察すべきポイント

まず三浦氏より座学を通して、カルテ(コンディショニングファイル)の概要、他館から資料を借用して返却に至るまで各種調査や手続きの流れを実際に北海道博物館で開催された展覧会業務を参考事例として解説していただきました。特に、今回の研修のテーマになっているカルテの様式については、資料の観察すべき点や記載すべき事項を詳しく紹介いただきました。

座学終了後は、ワークショップとして、参加者が漆器、文書資料、衣服の実物資料を注意深く観察し、カルテの記載を実際に行いました。参加者にとっては、今後の資料貸借に活かすことができる意義深い講座となったのではないのでしょうか。

（文責 伊藤大介）



2日目の研修風景



## 北のミュージアム紀行10 「新十津川町開拓記念館」

今回の北のミュージアムは、ミニ森の茶レングの新十津川町開拓記念館です[写真1]。

1889(明治22)年8月、奈良県吉野郡十津川郷を襲った台風と秋雨前線による大雨で、十津川(熊野川)では大規模斜面崩壊が起き多くの塞き止め湖が出現、それが一挙に決壊し多くの集落を襲い、2691名もの被災者を出しました。この大水害により被災者600戸2489人がトック原野(徳富川流域)に移住しました。国や県に集団移住を強いられた開拓民が今の新十津川町の基礎を作ったのです。

この史実をもとに、児童文学者の川村たかしは、北海道のトック原野に移住した十津川村からの移民、津田フキを主人公にした物語を書きました。テレビドラマにもなりましたね。移住の地のトック原野は現在の花月ですが、残念なことに十津川村にルーツを持つ世帯はもう数世帯しか残ってないそうです。



写真1 「新十津川町開拓記念館」 外観

同開拓記念館は、まさにこの史実を伝える資料館です。展示は自分たちの町のルーツ「母村・十津川村の自然と歴史」、移住の原因となった母村の被害状況や、母村の重要な基幹産業である林業の様子です。母村から贈られた樹齢約700年の巨大なヒノキ切り株も展示されています[写真2・3・4]。

「十津川団体の移住と開拓」では移住の経過や開拓小屋での当時の暮らしと原生林の伐採のジオラマはよく雰囲気が出ています。その他町の発展や郷土の教育や文化など7テーマに分けて展示しています。

町の資料館としては、自分たちのルーツや開拓の歴史などが分かる正統派の展示で、学芸員はいないのですが、なかなか良い展示だと思います。まさにミニ開拓記念館。町の子供達の郷土学習には最適だと思います。収蔵庫も見学できるので、係の人に声をかけてみてください。場所は新十津川市街の275号線沿い、直ぐ分かると思います。

開拓記念館へ寄ったついでに、グリーンパークにある新十津川物語記念館にもどうぞ。入植の地図もあります。また公園内には物語の主人公・フキさんの銅像が建立されています。あわせて訪れてみてはどうでしょうか？



写真2  
写真3 | 写真4

## 新十津川町開拓記念館

開館時間 10:00～16:00 (金曜日のみ 13:00 まで)

休館日 毎週月・火曜日、冬季休館 (11月～翌4月)

観覧料 大人 140(110)円、小・中学生 70(50)円 カッコ内は 10 名以上

所在地 新十津川町字中央 1-1

電話 0125-76-2622

## 編集後記

---

まずは、今回も部会ニュース発行の遅延を招いてしまいましたことを関係各位にお詫び申し上げます。

昨年秋から続いてきた来年度予算編成も終わり、先日、内示が出ました。今回は、財政部門に多くの知恵を借りながら練り上げた予算で、私の学芸員生活の中で最良のものになったと自己満足。

学芸員として最初に予算編成に関わったのは約 10 年前。その頃を思い返すと、恥ずかしき事の数々。そんな一例。どうしても館として収蔵すべき高価な資料があり、予算要求資料にあげて臨んだ予算ヒアリングの場でのやりとり。総務課長「これ財源は?」、学芸員「(財源?学芸員がそんなもんわかるかよ) ないです」、副町長「これを購入することの費用対効果がみえない」、学芸員「(はあ?何を収蔵するか設置条例に書いてあるだろ) 当館が収蔵して次の世代が町を知るために役に立ててもらいたい。短期的には効果はどうか説明しかねます」、総務課長・副町長「こんなものは絶対に予算つけない!」、学芸員「資料も収蔵できないのに、学芸員を置くなんて考えない方がいいですわ。それこそ費用対効果がみえません」。

結果としては予算がついて資料が購入できました。知恵を絞ってくださった関係者にも感謝です。ただ、今に至るまでこの時のやりとりにはつくづく反省しきりです。

地方の小規模館ですから、学芸員が財務会計や施設維持管理も一切合切をやらなければなりません。そのような館で財源を自分で探さないとか、予算がないのでできないと言うことは、自分の学芸員の仕事を放棄しているのと同義なのではないかと。同じ役所組織でも、人の生き死にに関わる部署では、「予算がない」なんていえない訳ですから。そんなことを考えながら、再来年度に向け、新たな財源づくりを考えている今日この頃です。

(伊藤大介・記)

### 北海道博物館協会

### 学芸職員部会ニュース No.93

---

発行日 2020(令和2)年2月29日

編集 小玉愛子 (みちくさ研究所 in 苫小牧)

伊藤大介 (ニセコ町・有島記念館)

発行者 北海道博物館協会学芸職員部会

〒049-3106 北海道二世郡八雲町末広町 154 番地

八雲町郷土資料館・木彫り熊資料館内

TEL 0137-63-3131 FAX 0137-64-3848

北海道博物館協会 学芸職員部会ホームページ 学芸職員部会入会申込案内

